

Tokyo Institute for Advanced Studies of Language

2023年度

理論言語学講座要項

東京言語研究所

開講期間

前期 ● 2023年 5月～7月
夏期集中 ● 2023年 8月
後期 ● 2023年10月～12月

申込期間

前期 ● 2023年 3月31日(金)～5月8日(月)
夏期集中 ● 2023年 6月30日(金)～7月31日(月)
後期 ● 2023年 8月18日(金)～9月25日(月)



2023年度 理論言語学講座要項 目次

委員長挨拶（研究所沿革）運営委員・顧問…………… P2～3

講座申込方法…………… P4

講座日および教室…………… P5

受講規定…………… P7

講座紹介…………… P8～9

時間割…………… P10

春期講座のご案内…………… P11

書籍のご案内…………… P12

理論言語学講座講義概要…………… P13～28

教室地図…………… P29

運営委員・顧問（2023年2月現在／50音順）

運営委員長 ● 窪 蘭 晴夫（国立国語研究所客員教授）

運 営 委 員 ● 今西 典子（東京大学名誉教授）
大堀 壽夫（慶應義塾大学教授）
川村 大（東京外国語大学教授）
酒井 智宏（早稲田大学教授）
佐野 哲也（明治学院大学教授）
嶋田 珠巳（明海大学教授）
杉岡 洋子（慶應義塾大学名誉教授）
高橋 将一（青山学院大学教授）
長屋 尚典（東京大学准教授）
西村 義樹（東京大学教授）

顧 問 ● 池上 嘉彦（東京大学名誉教授／昭和女子大学名誉教授）
池内 正幸（聖徳大学教授）
上野 善道（東京大学名誉教授）
大津由紀雄（関西大学客員教授／慶應義塾大学名誉教授）
尾上 圭介（東京大学名誉教授）
梶田 優（上智大学名誉教授）
西山 佑司（慶應義塾大学名誉教授）
長谷川欣佑（東京大学名誉教授／獨協大学名誉教授）

運営委員長挨拶

東京言語研究所は1966年3月、故服部四郎博士(東京大学教授、当時)の構想をもとに開設されました。服部博士は当時、日本の大学のシステムの制約上、ほとんど満足のいく教育体制が存在しないことに強い危機を感じられ、大学の枠を超えて、才能ある人々に言語学の重要性和面白さを認識させる「言語学の塾」を創設しようと考えられました。

その目的に沿って、研究誌や月刊誌の刊行、公開講座や国際セミナーの開催など数々の企画が実行されましたが、その中核に位置づけられていたのが、1966年5月以来、休むことなく毎年開講されてきた理論言語学講座です。ここでは、第一級の教授陣を配した、体系的なカリキュラムからなる言語科学専門のコースが提供されています。1960年代と今日とでは、言語学環境は大きく変わりましたが「言語の理論的研究に裏打ちされた真の言語学基礎教育をおこなう」という講座の目的・理念は今でも変わっておりません。

その一方で、理論言語学講座も21世紀の言語科学が向かう先を見据えて、新しいカリキュラムを構築し、人々の現代的要請に応えようとしています。2016年に研究所が開設50周年という重要な節目を迎えたのを機に、今後の理論言語学講座のあり方について検討を重ね、2017年度から理論言語学講座の開講時間と時間割を大幅に変更いたしました。具体的には、毎日2時限(各90分) x 11週という時間割から毎日100分の1限制に変更し、また講座を原則として半期制にしました。1日に受講できる授業数は減りましたが、授業開始時間が6時から7時になったことに伴い、仕事や大学の授業を終えてからの参加が容易になったのではないかと思います。この改革に伴い、理論言語学講座の授業が一部、集中講義(夏期集中)として実施されることになりました。また2020年からはコロナ禍に対応するためにオンラインの授業が導入され、首都圏以外の方々の受講も可能になりました。

本研究所では、このような形で理論言語学講座の一層の充実を図ると同時に、以下のような多彩な事業を毎年企画しています。

- (i) キックオフである春期講座、
- (ii) ことばと関連した諸分野の第一線で活躍されている講師による公開講座、
- (iii) 理論言語学の専門家を講師に迎える集中講義、
- (iv) 教師のためのことばセミナー
- (v) 「理論言語学の現代的課題」リレー講義(新企画)

一人でも多くの方が、言語の本質を問題にする本講座を受講され、ことばについて考えることの楽しさと奥深さを共有していただきたいと思います。多数のご参加をお待ちしております。

東京言語研究所 運営委員長
窪 蘭 晴夫

2023年度 理論言語学講座 受講要項

受講条件

大学教養課程修了程度の一般的な学力があることが望ましいが、学歴、年齢、国籍は問わない。

申込み方法

東京言語研究所ホームページの「受講申込みフォーム」に必要事項を入力し、送信する。

申込期間

1. 前期・通年講座 3月31日（金）～5月8日（月）AM10:00まで
2. 夏期集中講座 6月30日（金）～7月31日（月）AM 10:00まで
3. 後期講座 8月18日（金）～9月25日（月）AM10:00まで

※期日までに新規生、および継続生ともに申し込みをし、受講料の振込をおこなう（申し込みと受講料の振込の締切は同日）。

※「新規生」とは、東京言語研究所で理論言語学講座を初めて受講する方（過去に春期講座や集中講義、公開講座を受けた方は含みません）。

※「継続生」とは、過去6年以内に理論言語学講座を受講した経験のある方。

※受講料の振り込みを確認次第、事務局より受講票をE-mailにてお送りします。講義に関する情報は講義開始の前週水曜日までにお知らせします。

■入学金 11,000 円（新規生のみ／税込）

■受講料（税込）

1. 一般

- ・半期 1 課目 25,000 円
- ・通年 1 課目 50,000 円

2. 学生・大学院生

- ・半期 1 課目 12,500 円
- ・通年 1 課目 25,000 円

※ 通信教育課程や課目等履修生は一般受講料となります。

※ 学生・大学院生は、学生証のコピー（メール添付可）を提出ください。

■受講料の振込先

1. 郵便振替 00110-8-43537

（名義）財団法人 ラボ国際交流センター

2. 銀行振込

りそな銀行（銀行コード番号 0010）

新都心営業部支店（支店番号 675）

普通預金 口座番号 6726641

（名義）財団法人ラボ国際交流センター

ザイ）ラボコクサイコウリュウセンター

※振込手数料は受講者負担となります。

3. 海外からの送金情報

○BANK ACCOUNT

- ・ Bank Name & Address : Resona Bank, Ltd
Shintoshin Banking Department
6-12-1 Nishi-shinjuku Shinjuku-ku Tokyo Japan
- ・ Account Number : Savings account 6726641
- ・ SWIFT Code : DIWAJPJT
- ・ Nominee : Labo International Exchange Foundation
1-3-21, Okubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0072 Japan

※海外からの送金の場合も、振込手数料は受講者負担となります。

手数料は、国や銀行によって異なりますので各自で確認ください。

前期／開講式、 およびオンラインガイダンス

●4月22日（土）10:00～11:45

1. ミニ講義「言語研究の面白さ」講師：西山佑司（慶應義塾大学名誉教授）
2. 2022年度理論言語学賞授賞式
3. 理論言語学講座オリエンテーション

（3月31日（金）より東京言語研究所ホームページより申込受付開始）

後期／オンラインガイダンス

●9月16日（土）10:00～11:00

1. ミニ講義「言語研究の面白さ」講師：西村義樹（東京大学教授）
2. 理論言語学講座オリエンテーション

※ガイダンスは受講を確定された方だけではなく、受講を検討中の方も受けられます。

講義

1. スケジュール

月～金曜／前期10回、後期10回／19:00～20:40 100分（祝祭日は休講）

2. 日程

	前 期	後 期
月	5/15,22,29,6/5,12,19,26,7/3,10,24	10/2,16,23,30,11/6,13,20,27,12/4,11
火	5/16,23,30,6/6,13,20,27,7/4,11,18	10/3,10,17,24,31,11/7,14,21,28,12/5
水	5/17,24,31,6/7,14,21,28,7/5,12,19	10/4,11,18,25,11/1,8,15,22,29,12/6
木	5/18,25,6/1,8,15,22,29,7/6,13,20	10/5,12,19,26,11/2,9,16,30,12/7,14
金	5/19,26,6/2,9,16,23,30,7/7,14,21	10/6,13,20,27,11/10,17,24,12/1,8,15
夏期集中	認知言語学Ⅱ（西村義樹） 8月11日（金）～13日（日）	
	言語心理学（広瀬友紀） 8月18日（金）～20日（日）	

※夏期集中の講義形式については、対面講座とその様子をリアルタイムで配信するオンライン講義を実施予定です。夏期集中講義申込開始時に研究所公式サイトにてお知らせします。

3. 対面形式講義 実施場所：新宿区大久保1-3-21 ルーシッドスクエア新宿イースト2階
ラボ教育センター内

4. 申込みをされた時点で、以下の事項に同意されたものとします。

- ・全講義オンライン（ZOOM）で配信します。ZOOMのよくあるご質問などをご参照の上、ご自身で設定してください。
- ※夏期集中講義については、対面形式の講義を併用予定（夏期集中講義申込時に確定）です。その際は講義を中継いたします。
- ・講義はリアルタイムでの受講のみで、ご自身での講義の録画はできません。
- ※合理的配慮に基づき、障がい者手帳をお持ちの方に録画を許可する場合があります。その場合は、申し込み時に事務局に連絡ください。
- ・事務局の内部資料として、講義全般を録画します。事務局が録画した講義の公開や二次使用はいたしませんのでご了承ください。
- ・参加者のパソコン等の性能やインターネット回線の状態によっては、正常に受信できない場合があります。接続環境の良好な場所からアクセスをお願いします。オンライン講座に関するパソコン操作やインターネット環境に関する技術的なサポートは行っておりませんので、必ず、事前に確認ください。
- ・ZOOMに入室される際には、登録の苗字で参加ください。
- ・講師への質問は、受講講座開講期間中に限ります。
- ・次のような好ましくない行為があったと事務局で判断した場合は、退出、受講の停止、もしくは受講の取り消しをすることがあります。なおその場合は、受講料の返金は致しません。
 - ①他の受講生の迷惑となる行為や、授業の進行を妨げるような行為を行った場合
 - ②事務局の業務妨害や運営業務の遂行を妨げる行為があり、事務局が不適当と判断する場合。
例）他の受講生、講師、事務局スタッフへの誹謗、中傷や迷惑行為を含む
 - ③授業のリンク（招待URL）、および資料などの情報を他者に共有する行為を行った場合。
 - ④個人での録音、録画、スクリーンショットでの撮影を行った場合。

5. 講義資料

- ・講義資料は、原則的にGoogleドライブにアップロードします（一部講座除く）。
- ※「実験音声学」はWIKIを使用予定です。
- ※東京言語研究所では、受講生並びに講師との方々との情報共有を円滑に行うためにGoogleのサービスを利用しています。つきましては、お申し込みの際のメールアドレスは@gmail.comもしくはGoogleのサービスが利用できるメールアドレス（所属団体によっては@gmail.com以外のメールアドレスでも可能。詳細は所属団体にご確認ください）をご利用ください。

6. 休講

- ・講師の都合等で休講となる場合があります。休講が発生した場合は、E-mailでご連絡します。休講があった場合は補講を実施します。

7. レポートの提出

- ・講義終了後に、成績評価のためのレポート提出（任意）を受け付けます。期限は各講座によって異なるため、各講師の指示する日までに、指定の方法にて提出ください。

8. その他、講座開講の要件

講座開始の1週間前（18:00）までに受講生が10名に満たない場合は、開講しません。講座が開講されない場合、当該課目の受講予定者にはEmailにて連絡し、納入済の受講料を返金します。

事務局問い合わせ受付時間

※社会情勢により受付時間に変更になる可能性があります。
月～金曜日 10:00～17:00 ※木曜日除く

受講規定

- (1) 在籍年限は特に定めない。
- (2) 各年度の受講課目数は原則として制限しない。ただし、講座開始後の受講課目変更は原則として許可しない。
- (3) 1 課目につき、出席回数が講義実施回数の2分の1以上であることを学期末及第とする。
- (4) 学期末の成績評価は、原則として提出されたレポートに基づいておこなう。成績は、A, B, C, Dとし、C以上を及第とする。
- (5) 別途定める基準により、卒業認定された受講者には、本講座の卒業証書を授与する。当該受講生は、以後、随意の講義を担当講師の許可を得て無料で受講することができる。
- (6) 同一課目を2回以上受講した場合には、卒業の際、その最高点をもって当該課目の成績とする。
- (7) 6年連続して出席率が2分の1以上の課目がない場合は除籍する。但し、休学期間は算入しない。
- (8) 休学期間は最長連続6年とする（休学手続きは、予め事務局に備付けの用紙を用いて行うこと）。
- (9) 通年講座で開講後受講回数10回以下で退学することが予め判っている者、ならびに10月以降の受講開始を希望する場合は、担当講師の許可を得て受講を認める。その際の受講料の半額に2,000円プラスしたものにす。すなわち、1課目受講につき、(受講料の半額+税) + 2,000円とする。学生割引対象者も上記に準じる。
- (10) 当研究所の都合以外の理由で、定められた日時までに受講料納入手続きを完了しない場合、および受講手続き終了後の受講課目変更の場合には、特別手数料として1件につき1,000円申し受ける。
- (11) 講座開講後、既納入諸費用は受講講座不成立の場合を除き、原則として返金しない。

[服部四郎賞、理論言語学賞]

- (1) 服部四郎賞は、学術的に特に優れたと認められる論文（講座のレポート）に対して与えられる。副賞の奨学金は10万円とする。
- (2) 理論言語学賞は講座において成績優秀なものに与えられる。副賞の奨学金は4万円とし、受講者は毎年5人程度をめやすとする。ただし、同一受賞者は同一課目につき3回までとする。また、半期講座の場合の奨学金は2万円とする。学生割引対象者の副賞は、上記の半額とする。

〈卒業要件〉

下の規定を満たした者に本講座の卒業証書を授与する。

規定

- ①通年講義1課目1年を1単位、半年講義1課目半年を0.5単位として、合計12単位を優秀な成績をもって取得すること。
- ②上記12単位の中に、別表（P.8参照）に記すⅠ群からⅤ群の科目群について下に示す単位数を含むこと。
 - Ⅰ群から1単位以上。
 - Ⅱ群から2単位以上。
 - Ⅲ群から1単位以上。
 - Ⅳ群から1単位以上。
 - Ⅴ群から3単位以上。

「優秀な成績」の基準および、個々の単位の認定の詳細に関しては運営委員会で決定する。ただし、上記は2012年度以降に入学した者に対して適用するものであり、2011年度以前に入学した者については別途これを定める。なお、卒業者は本講座の講義を、担当講師の許可を得て、無料で聴講することができる。

〈証明書発行手数料〉

在籍証明書、単位取得証明書、卒業証明書各1通につき1,000円。

講義カテゴリー

講義題目（担当者）

I 群

言語学概論

前期／窪園晴夫他 4 名・後期／長屋尚典他 4 名

言語学入門

言語類型論入門・長屋尚典

II 群

音声学

調音音声学（中川裕）・実験音声学（北原真冬）

音韻論

語形成と音韻構造（窪園晴夫）

形態論

統語論

意味論

意味論の基礎（酒井智宏）

語用論

語用論入門（松井智子）

III 群

生成文法入門

生成文法 I（高橋将一）

生成文法

生成文法 II 項省略と統語理論（斎藤衛）

IV 群

認知言語学入門

認知言語学 I 構文理論入門（大堀壽夫）

認知言語学

認知言語学 II（西村義樹）

認知言語学 III（池上嘉彦）

V 群

社会言語学

日本語諸方言の語彙 文法と社会言語学（小西いずみ）

史的言語学

歴史比較言語学入門（吉田和彦）

言語心理学

言語心理学入門 人間の言語処理（広瀬友紀）

日本語文法理論

日本語文法理論 I（前田直子）

日本語文法理論 II（定延利之）

日本語文法理論 III（川村大）

言語学特殊講義

言語哲学（峯島宏次）

言語学特殊研究

理論言語学講座は、2023年度も、広い研究領域について数多くの課目を開講しました。各課目の詳細は担当講師による概要をお読みいただくとして、ここでは理論言語学講座全体を鳥瞰いたします。

p.8の表のⅠ～Ⅴ群の区別は、東京言語研究所が定めた言語学のカテゴリー区分です。2023年度は全体で、前期と後期各8課目、通年2課目、夏期集中2課目の計20課目を用意しました。

Ⅰ群の課目は、言語学を初めて学ばれる方や、言語研究の諸分野を万遍なく学びたいという方向けに開講するもので、今年度は言語学概論(前期+後期)と言語学入門(前期)を設定しました。言語学概論は10名の講師がそれぞれ専門の分野を2回ずつ担当するリレー形式の講義です。前期と後期の半期科目として設定されていますが、言語研究の全体像をつかみたい方には両期の受講をお勧めします。また言語学入門(言語類型論入門)では、言語の多様性から言語学の基礎を学びます。

Ⅱ群の課目は、理論言語学の基礎課目です。「音声学」に「調音音声学」(前期)と「実験音声学」(後期)の2課目を設定しました。「調音音声学」では音声の多様性とその背後にある仕組みを説明しながら多様な音声を聞き分け発音する訓練を行い、「実験音声学」では音声分析ソフトを使った実験音声学の基礎を学びます。いずれも実習形式の授業です。「音韻論」(前期)では複合語や混成語などを作り出す語形成過程と音韻構造の関係を探ります。「意味論」(後期)では基本的な文献を読みながら「意味」の意味を掘り下げ、「語用論」(後期)では、人間の語用能力をさまざまな視点から分析します。

現代の理論言語学には生成文法と認知言語学という二大潮流がありますが、これらを学ぶのがⅢ群とⅣ群の課目です。Ⅲ群の生成文法については「生成文法Ⅰ」(通年)と「生成文法Ⅱ」(後期)の2課目を設定しました。Ⅰ(生成文法入門)では生成文法を基礎から学び、中上級のⅡでは項省略と統語理論の問題を考察します。

Ⅳ群の認知言語学には3課目用意しました。「認知言語学Ⅰ」(前期)では認知言語学の入門として構文理論を紹介し、「認知言語学Ⅱ」(夏期集中)ではLangackerを読みながら認知文法の基礎から最前線までを学びます。「認知言語学Ⅲ」(通年)では『「する」と「なる」の言語学』とその周辺を探ります。

Ⅴ群に属する講座として7課目を用意いたしました。「社会言語学」(前期)では、日本語諸方言の語彙と文法を分析し、「史的言語学」(後期)では歴史比較言語学への入門として、言語変化のメカニズムと記録以前の言語の復元について考えます。「言語心理学」(夏期集中)では人間が言語を理解する仕組みを考察し、「言語学特殊講義(言語哲学)」(後期)では言語学の視点から言語哲学を学びます。

Ⅴ群にはまた、日本語の文法を考察する3つの課目を設定しました。「日本語文法理論Ⅰ」(前期)では日本語記述文法の入門として奥田靖雄・言語学研究会の複文研究を学び、「日本語文法理論Ⅱ」(前期)では、コミュニケーションという視点から日本語文法を分析します。「日本語文法理論Ⅲ」(後期)ではスル・シタ・シテイルを題材にテンス・アスペクト形式の諸問題を考察します。

このように、2023年度も多様な講座を用意いたしました。できるだけ幅広く、さまざまな課目を計画的に受講していただきたいと思います。

(運営委員長 窪田 晴夫)

2023 年度 講座時間割

● 前期 5 月 16 日～ 10 週間（祝祭日は開講しません）

時 間	月	火	水
19:00 ～ 20:40 (100分)	生成文法 I 高橋将一	認知言語学Ⅲ 池上嘉彦	音韻論 窪園晴夫
	日本語文法理論 I 前田直子	社会言語学 小西いすみ	言語類型論入門 長屋尚典
時 間	木	金	夏期集中 認知言語学Ⅱ 西村義樹 8/11、12、13 言語心理学入門 広瀬友紀 8/18、19、20
19:00 ～ 20:40 (100分)	言語学概論	調音音声学 中川 裕	
	日本語文法理論Ⅱ 定延利之	認知言語学Ⅰ 大堀壽夫	

● 後期 10 月 3 日～ 10 週間（祝祭日は開講しません）

時 間	月	火	水
19:00 ～ 20:40 (100分)	生成文法 I 高橋将一	認知言語学Ⅲ 池上嘉彦	意味論の基礎 酒井智宏
	生成文法Ⅱ 斎藤 衛	語用論入門 松井智子	歴史比較言語学入門 吉田和彦
時 間	木	金	●前期ガイダンス 4 月 22 日（土） 10：00 ～ 11：45 ●後期ガイダンス 9 月 16 日（土） 10：00 ～ 11：00 ●春期講座 4 月 15、16 日
19:00 ～ 20:40 (100分)	言語学概論	実験音声学 北原真冬	
	日本語文法理論Ⅲ 川村 大	言語哲学 峯島宏次	

※ 1 日（19：00－20：40）に受講できるのは 1 課目です。

言語学概論 担当者および担当日

前 期	音声学・音韻論	窪園晴夫	5/18、25
	形態論	長野明子	6/1、8
	日本語文法理論	川村 大	6/15、22
	意味論・語用論	酒井智宏	6/29、7/6
	史的言語学	堀田隆一	7/13、20
後 期	言語類型論	長屋尚典	10/5、12
	言語心理学	佐野哲也	10/19、26
	認知言語学	松本 曜	11/2、9
	生成文法	平岩 健	11/16、30
	社会言語学	嶋田珠巳	12/7、14

春期講座のご案内

二日間で、受講者に現代言語学の主要な研究領域やアプローチを紹介し、魅力ある言語学の世界へ誘うことを目的としています。2023年度理論言語学講座を担当する講師を中心に講座編成がおこなわれていますので、理論言語学講座を検討中の方はこの講座を受講することをお勧めしています。すべての講座をオンラインで行います。詳細は研究所ホームページをご覧ください。

課 目 (講師)		
〈1日目〉 4月15日(土)	1 限	認知言語学Ⅰ メンタル・コーパス：導入と拡張 (大堀壽夫)
		実験音声学 (北原真冬)
	2 限	言語哲学 (峯島宏次)
		「日本語の方言」の社会言語学 (小西いずみ)
	3 限	言語心理学 言語の理解を科学する (広瀬友紀)
		意味論 (酒井智宏)
	4 限	日本語文法理論Ⅰ 現代日本語の条件表現 (前田直子)
		生成文法入門 (高橋将一)
〈2日目〉 4月16日(日)	1 限	音韻論 語形成と音韻構造 (窪園晴夫)
		言葉のフィールドワーク入門 (長屋尚典)
	2 限	史的言語学 (吉田和彦)
		認知語用論 (松井智子)
	3 限	生成文法Ⅱ 省略現象と言語間変異 (斎藤衛)
		日本語文法理論Ⅱ コミュニケーションの中の文法 (定延利之)
	4 限	認知言語学Ⅲ (池上嘉彦)
		調音音声学 (中川裕)

- ・ 1 限 (10:00 ~ 11:20) ・ 2 限 (11:40 ~ 13:00)
- ・ 3 限 (14:00 ~ 15:20) ・ 4 限 (15:40 ~ 17:00)

書籍のご案内

「ことばの科学」

西山佑司・杉岡洋子〔編〕

定価：本体 2,000 円 + 税

ことばの科学

東京言語研究所開設50周年記念セミナー

西山佑司・杉岡洋子〔編〕

影山太郎
高見健一
窪菌晴夫
三宅知宏
嶋田珠巳
高橋将一
大堀壽夫

開拓社

服部四郎博士の構想により、1966年に開設された東京言語研究所。昨年開催された開設50周年記念セミナーを元に編纂しました。ことばの科学あが切り開く豊かで刺激的な世界へ読者を誘い、ことばを科学することの喜びと重要性を伝えます。

第Ⅰ部 日本語はどういう言語か ―内から見た日本語、外から見た日本語―

影山太郎 第1章 複合語の小宇宙から日本語文法の大宇宙を探る

1. はじめに
2. 動詞領域と名詞領域に見られる膠着性の非対称性
3. 時制付きの複合動詞
4. 時制を伴わない複合述語
5. 定型と非定型の中間的な複合述語
6. まとめ

高見健一 第2章 話し手考慮の重要性と日本語 ―「～ている」と「～てある」表現を中心に―

1. はじめに
2. 「～ている」構文
3. 「～てある」構文
4. 結び

第Ⅱ部 ことばの科学 ―将来への課題―

窪菌晴夫 第3章 音韻論の課題 ―類型論的観点から見た日本語の音韻構造―

1. はじめに
2. 母音の有標性
3. 子音の有標性
4. 音節とモーラ
5. 音節構造の有標性

三宅知宏 第4章 日本語の課題 ―「記述」と「理論」の壁を越えて―

1. はじめに
2. 現状と今後の方策
3. 事例
4. おわりに

嶋田珠巳 第5章 社会言語学の課題 ―ことばの選択を考える―

1. はじめに
2. ことばの選択
3. ことばの選択をめぐる社会言語学の話題
4. アイルランドの事例にみる「ことばの選択」
5. 「〈社会言語学〉将来への課題」を視野に

高橋将一 第6章 生成文法の課題 ―人間の言語機能の解明に向けて―

1. はじめに
2. 併合とその制約
3. 節減理論への経験的挑戦
4. おわりに

大堀壽夫 第7章 認知言語学の課題 ―文化解釈の沃野―

1. 序論
2. 認知言語学の過去・現在・未来
3. 解釈的言語学
4. 文化のキーワード
5. 結論

理論言語学講座概要

※各講義題目の右脇の表示は、その講義題目がどの講義カテゴリーに属するかを示すものです。講義カテゴリーは受講生が本理論言語学講座の卒業要件を満たすかどうかを判定する際に用いられます。

通年講座（前期と後期でセットの講座）

時間：19:00-20:40（100分）

前期 2023年5月15日～全10回

後期 2023年10月2日～全10回（祝祭日の講義はありません）

生成文法理論を通して言語を考える

生成文法Ⅰ（入門）

生成文法入門 ㊦

本講義では、下記のテキストを使用し、生成文法理論を基礎から学びます。前期では、生成文法理論における言語に対するアプローチ、言語の分析方法、生成文法理論に関する基本的概念、理論的道具立て、理論の構築方法などを取り上げていきます。後期では、主要部移動、wh移動、削除に関わる構文といった具体的な言語現象を検討することで、生成文法理論と言語に対する理解を深めていきます。また、テキスト内のエクササイズや自作の問題を解くこ

とで、様々な言語現象を実際に分析していきます。テキストの内容以外にも、受講者の興味・関心を考慮に入れ、なるべく幅広く言語現象を取り上げていきたいと思っています。英語で書かれたテキストを読みますが、テキストの内容に関しての講義は日本語で行いますので、内容を把握した上でテキストを読むことができます。また、テキストの内容についてご不明な点がございましたら、講義中も質問を受け付けます。

高橋 将一
たかはし しょういち



青山学院大学文学部英米文学科教授

統語論、意味論、統語論と意味論のインターフェイス 2006年マサチューセッツ工科大学大学院博士課程言語学・哲学科修了、Ph.D. 主要論文：Putative null pronominals in English: Causes and consequences. *Studia Linguistica* 73:650-682, The hidden side of clausal complements. *Natural Language & Linguistic Theory* 28:343-380など。

テキスト・参考文献 Freidin, Robert. 2012. *Syntax: Basic Concepts and Applications*. Cambridge University Press.

この課目で前提とされる知識など 生成文法理論についての知識がなくても理解できるように講義を行います。

講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

現時点の認知言語学から検討、評価、そして更なる展開の可能性を探ります

認知言語学Ⅲ 『「する」と「なる」の言語学』をめぐって

認知言語学



外国語と多かれ少なかれ苦労してつき合った経験のある人なら誰しも、勉強して身につけた外国語と較べて、いつの間にか自然と身についた自分の母語とは一体どういう言語なのかと改めて考えてみたくなるはずです。『「する」と「なる」の言語学-言語と文化のタイポロジーへの試論』と題された書物(大修館書店、1981)も、そのような問いかけから生まれたもの — エッセイ風の考察と言語学的な論考との中間あたりを念頭に置いての著作でした。変形文法一色に染まっていた時期には異端的な存在と見做されていたらしいですが、現在まで18刷を重ね、今

では認知言語学的な先駆的試みと受けとめられているようです。

先年度から持ち越しになってきていました丸山真男の「歴史意識の『古層』」(1971)で提示されていた二つの概念系列 — 〈なる・なりゆく〉 - 〈つぎ・つぎつぎ〉 - 〈いきおい〉 と、〈つくる〉 - 〈うむ〉 - 〈なる〉 — に触発されての考察、検討も、昨年度でひとまず「けり」がつきました。

今年度は間違いなく、下欄記載の論考に沿って「〈スル〉的な言語と〈ナル〉的な言語」というテーマについての論点の考察、検討を進めていきます。

池上 嘉彦
いけがみ よしひこ



東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授

東京大学で英語英文学(B.A., M.A.)、Yale大学大学院で言語学(M.Phil., Ph.D.)を専攻。インディアナ大学、ミュンヘン大学、ベルリン自由大学、チュービンゲン大学、北京日本学研究中心、などで客員教授、ハンプルク大学、ロンドン大学、などで客員研究員。日本認知言語学会名誉会長。著書:『英詩の文法』(研究社)、『意味論』(大修館書店)、『「する」と「なる」の言語学』(大修館書店)、『ことばの詩学』(岩波書店)、『詩学と文化記号論』(講談社)、『記号論への招待』(岩波書店)、『〈英文法〉を考える』(筑摩書房)、『日本語と日本語論』(筑摩書房)、『自然と文化の記号論』(日本放送出版協会)、『英語の感覚・日本語の感覚』(日本放送出版協会)など。学術書翻訳、論文、多数。

テキスト・参考文献『表現構造の比較 — 〈スル〉的な言語と〈ナル〉的な言語』(国広哲弥編『日英語比較講座・第4巻・発想と表現』第二章(pp.82-110)大修館書店、1982)をpdfでテキストとして共有。まずその言語的側面を現在の認知言語学の知見を参照しつつ検討します。その後は、『「する」と「なる」の言語学 — 言語と文化のタイポロジーへの試論』(大修館書店、1981)から、それを超える文化的側面に関わる問題やさらに専門的な言語理論的な側面(例えば、「場所理論」)などを拾い上げ、補足します。その他多くの関連文献からの引用をハンドアウトとして配布。

この課目で前提とされる知識など日本語母語話者には母語について改めて考察する試みの魅力を体験してほしい。非母語話者でも、日本語への特別な関心とある程度の習熟度があれば歓迎。認知言語学の知識については、必要な場合はその都度説明します。

講義形態ハンドアウト(スライド)を参照しながらの講義形式が中心となります。

前期講座（半期単位で受講可能講座）

2023年5月15日～全10回（祝祭日の講義はありません）

時間:19:00-20:40（100分）

奥田靖雄・言語学研究会の複文研究

日本語文法理論Ⅰ 日本語記述文法入門

日本語文法理論 ⑨

現代日本語の文法研究の一つの大きな流れとして、多くの用例を収集し分析するという実証的な研究があります。近年はコーパスの充実とともに、実例を重視した計量的な文法研究の意義が高まっています。本講義では、このような流れの中で大きな位置を占める言語学研究会の研究を取り上げます。

言語学研究会は奥田靖雄（1919-2002）という不世出の言語学者を中心とした言語学サークルです。その独特の研究手法と理論により評価も分かれ、表舞台に出ることはあまり多くありませんでしたが、現在で

も、多くの研究者と日本の記述言語学に強い影響を与えています。

本講義では、奥田靖雄・言語学研究会が執筆した日本語の複文（条件文）についての論文を精読しながら、用例を重視し活用する記述研究の手法を学びます。また講義の中では、国立国語研究所のコーパスを使用していきますので、コーパスの使用に関心のある方は、コーパス検索に必要なアプリケーション「中納言」の使用申請を行っておいってください。
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/useraccount/register>

前田 直子
まえだ なおこ



学習院大学文学部日本語日本文学科教授

東京大学文学部（言語学）卒業、東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程（日本語学）修了、大阪大学大学院文学研究科（日本学専攻・現代日本語学）修了。博士（文学）。東京大学留学生センターを経て、2002年より学習院大学文学部助教授、2008年より同教授。専門は現代日本語文法（複文の記述的研究、日本語教育文法）。主な著作：『「ように」の意味・用法』（単著、笠間書院2006）、『現代日本語文法 6 第11部 複文』（共著、くろしお出版2008）、『日本語の複文－条件文と原因・理由文の記述的研究』（単著、くろしお出版2009）、『図解 日本語の語彙』（共著、三省堂2011）、『現代語文法概説』（共著、朝倉書店2020）、『日本語学入門（放送大学教材）』（共著、NHK出版2020）、『日本語受身文の新しい捉え方』（共著、くろしお出版2022）など。

テキスト・参考文献 教科書は使用せず、使用する資料はすべて配布します。参考文献は授業時に随時紹介します。

この課目で前提とされる知識など 特にありません。奥田靖雄・言語学研究会の論文は、初めて読む人には驚くところが多々あると思いますが、その違和感と不思議さを楽しみ、複雑さと奥深さを味わう精神の柔軟さと根気強さをお持ちいただけることを期待しています。

講義形態 論文の内容について、皆さんと一緒に考えながら精読していきます。受講生の皆さんの積極的なご参加を期待しています。

生成文法Ⅰ（入門）

生成文法入門 ⑩

内容は通年講座を参照

高橋 将一
たかはし しょういち

青山学院大学文学部教授

語彙・文法の方言差を地理的分布と社会的要因から捉える

社会言語学 日本語諸方言の語彙・文法と社会言語学 社会言語学 ㊦

この講義では、日本語の方言間の語彙・文法体系の異同を、地理的分布と社会的要因をふまえて考察します。親族語彙、自称詞・対称詞、命令・禁止表現などをとりあげます。また、各話題の前に「日本語の方言」とは何を指すのかを、「日本語族」「標準語」「中央語」等の概念とともに確認します。

自称詞・対称詞を例に本講義の関心を示します。自称詞・対称詞とは、1・2人称代名詞、および、発話において話し手・聞き手を指す語句のことです。標準語には1人称代

名詞が複数あり、ジェンダーや場面で使い分けられます。対称詞としては2人称代名詞より親族名詞や名前などが用いられます。しかし方言によっては1人称代名詞のジェンダー差が希薄だったり場面による運用が異なったりします。複数の2人称代名詞が対称詞として機能する方言もあります。このように、語彙・文法の方言差は、表層形の違いにとどまらず、言語体系と語用論的規則の異同として捉えられます。この講義では、話題ごとにいくつかの方言の体系と運用則を示すとともに地理的分

テキスト・参考文献 教科書は使わず、ハンドアウトを配布する。主な参考文献：真田信治ほか編（2021）『新版社会言語学図集』ひつじ書房；国立国語研究所編『方言文法全国地図』全6集、国立印刷局；Wardhaugh, R. and Fuller, J. M. 2021. An Introduction to Sociolinguistics, 8th ed. Oxford: Blackwell.

この課目で前提とされる知識など 特別な前提知識は必要としません。直接には語彙・文法・語用論の事項を扱いますが、音声学・音韻論に関わる事項に話が及ぶことがあります。その際は受講生の背景をふまえて必要な情報を補います。

講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります

小西いずみ こにし



東京大学大学院人文社会系研究科准教授
東京都立大学人文学部卒業、同大学院人文科学研究科修士課程修了、東北大学大学院文学研究科博士課程後期修了、博士(文学)。専門は日本語学、方言学。主要著書：『富山県方言の文法』（ひつじ書房、2016年）、『日本語学の教え方』（共編著、くろしお出版、2016年）、『日本語の格表現』（共著、くろしお出版、2022）、『日本の消滅危機言語・方言の文法記述』（共著、国立国語研究所、2022）など。

布を参照し、個々の方言体系、体系間の異同、地理的分布、歴史・変化にどのような社会的要因が関わるのかを考えます。

認知言語学Ⅲ 『「する」と「なる」の言語学』をめぐって 認知言語学 ㊦

内容は通年講座を参照

池上 嘉彦 いけがみ よしひこ



東京大学名誉教授

語形成の背後にある音韻法則を解き明かす

音韻論 語形成と音韻構造 音韻論 ㊦

一般言語学の視点から語形成と音韻構造の関係を分析します。複合語（コロナ+ワクチン）、短縮語（ストライキ→スト、ドライブレコーダー→ドラレコ）、混成語（ゴリラ/クジラ→ゴジラ）、頭文字語（NHK）、逆さ言葉（野菜→サイヤ人、うまい→マイウ）、ポケモンの命名（腕力→ワンリキー）、赤ちゃん言葉（婆→ばあば）、ニックネーム（柳田→ギータ）などの語形成過程を（i）出力の音韻構造がどのような原理によって決まるか（音韻構造の変化）、

（ii）出力を音韻構造がどのように制限するか（音韻制約）、（iii）語形成に関わる音韻規則の適用を統語や意味構造がどのように制限するか（統語制約、意味制約）という3つの視点から考察します。標準語（東京方言）およびいくつかの日本語方言の音韻規則・形態規則の分析を通じ、語形成に関わる音韻構造の普遍性と言語個別性を探り、あわせて言語（方言）調査を行う際の方法論についても学びます。

窪蘭 晴夫 くぼその はるお



国立国語研究所 客員教授

専門は音韻論、音声学。1986年英国エジンバラ大学大学院（言語学）修了（Ph.D. 1988年）。南山大学、大阪外国語大学、神戸大学で教鞭を執った後、2010年より2022年まで国立国語研究所教授。一般言語学や言語類型論の視点から日本語の音韻構造と音韻構造の普遍性・多様性を研究している。主な著書に『語形成と音韻構造』（1995）、『一般言語学から見た日本語のプロソディー』（2021）（以上、くろしお出版）、『日本語の音声』（1999）、『新語はこうして作られる』（2002）、『アクセントの法則』（2006）、『数字とことばの不思議な話』（2011）（以上、岩波書店）、『通じない日本語』（2017、平凡社）、*Word and Sentence Prosody: The Endangered Dialect of Koshikijima Japanese* (2022, De Gruyter Mouton) など。

テキスト・参考文献 適宜、講義資料を配布します。また、参考文献は、講義の中で紹介していきます。

この課目で前提とされる知識など 言語学概論レベルの知識を前提とします。音韻論や形態論の基礎知識もあれば授業をより深く理解できますが必須ではありません。日本語だけでなく他言語や、音声以外の分野に関心のある人も歓迎します。

講義形態 講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。

言語の多様性から言語学を学ぶ

言語類型論入門

言語学入門 ③

世界には6000を超える言語が存在しますが、その構造は言語ごとに大きく異なります。たとえば、「マイが花瓶を壊した」という内容を伝えるために、日本語のようにSOV語順をとる言語もあれば、英語のようにSVO語順をとる言語もあります。さらにVSO、VOS、OSV、OVSといった語順も存在します。ばらばらです。しかし、完全に不規則というわけでもありません。実はSOV言語とSVO言語だけで世界の言語の80%以上を占めており、人

間の言語に「SがOに先行する」「VとOが隣接する」という傾向があることが分かります。

このような言語の多様性は、言語を科学的に探求する学問である言語学の研究課題のひとつです。この授業では、この言語の多様性に注目しながら言語学に入門します。国際音声記号や接辞、語順、カテゴリー化など言語学・言語類型論の基礎的概念を学び、言語の多様性を言語学の言葉で理解できるようになることを目指します。

テキスト・参考文献 適宜資料を配ります。

授業はスライドまたはハンドアウトで行います。

この課目で前提とされる知識など 言語の多様性に興味のある方なら誰でも受講できます。前提知識はいりません。

講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります

長屋 尚典
なが や なおのり



東京大学大学院人文社会系研究科准教授

PhD in Linguistics (Rice University, 2011)

フィリピンやインドネシアで話されるオー
ストロネシア諸語を中心に言語類型論の観
点から研究しています。最近書いた論文に
"Beyond questions: Non-interrogative
uses of ano 'what' in Tagalog" (Journal
of Pragmatics, 2022), "Directional,
topography, and cultural construals of
landscape in Lamaholot" (Linguistics
Vanguard, 2022) などがあります。

<https://note.com/norinagaya/>

言語研究の全体像を知る

言語学概論

言語学概論



「言語学概論」は前期と後期の2期にわたり、合計20回の講義を計10名の講師が2回(2週)ずつ分担する形で、言語研究の各分野の考え方と言語研究の面白さを解説する課目です。半期だけの履修も可能ですが、言語研究の全体像を理解するためにも両期とも受講されること

をお薦めします。

今期は音声学・音韻論、日本語文法理論、意味論・語用論、形態論、史的言語学の5分野について解説したいと思います。単位取得を希望する人は5名の講師が1題ずつ出すテーマから1つを選んでレポートを提出していただきます。

テキスト・参考文献 各講師が指定(もしくは配布)する。

この課目で前提とされる知識など ことばに関心のある人はどなたでも受講できます。言語学を一から学びたい方、言語研究の全体像をもう一度理解したい方、大学等で言語学概論をどのように教えたらいいか模索している方に特にお薦めの授業です。

講義形態 講義形式で進めます。

窪田 晴夫
くぼた はるお

国立国語研究所名誉教授



川村 大
かわむら ひとし

東京外国語大学大学院教授

酒井 智宏
さかい ともひろ

早稲田大学文学学術院教授

プロフィール下記以外は各講師の講義欄参照

長野 明子
ながの あきこ

静岡県立大学大学院国際関係学研究所 比較文化専攻教授

2007年津田塾大学大学院文学研究科後期博士課程修了(博士、文学)。専門は形態論、語形成論の研究です。主な著書・論文として、『形態論とレキシコン』(開拓社、2020年、共著)、『Morphology of direct modification』(*English Linguistics* 30, 2013年、日本英語学会賞(論文)および*English Linguistics* 研究奨励賞)、*Conversion and Back-Formation in English* (Kaitakusha, 2008年、市河賞受賞)などがあります。

堀田 隆一
ほった りゅういち

慶應義塾大学文学部教授

PhD (Glasgow University, 2005) 主要出版物:『英語の「なぜ?」に答えるはじめての英語史』(研究社、2016年)、『英語史で解きほぐす英語の誤解 ― 納得して英語を学ぶために』(中央大学出版部、2011年)、『スベリングの英語史』(翻訳)(早川書房、2017年)、*The Development of the Nominal Plural Forms in Early Middle English* (Tokyo: Hituzi Syobo, 2009)。英語史の話題を日々提供する「hellog ~ 英語史ブログ」(<http://user.keio.ac.jp/~rhotta/hellog/>)、および「Voicy 英語の語源が身につくラジオ (heldio)」(<https://voicy.jp/channel/1950/>)も継続中。

これまでほとんど研究されていない、日常のことばの新しい面について一緒に考えましょう。

日本語文法理論Ⅱ コミュニケーションの中の日本語文法 日本語文法理論 ⑧

車が動かない原因を発見すれば、「あ、サイドブレーキかかっている！」と、車内の誰でも言えます。しかし「あ、サイドブレーキかかっていた！」は、運転座席の者にほぼ限られます。なぜでしょう？／水槽があり、見ると金魚の死骸が浮いています。この時「あ、金魚死んでる」は誰でも言えます。しかし「あ、金魚死んだ」は、飼い主など、生前の金魚を見ていた者に限られます。なぜでしょう？／「あの人の話、長くない？」と訊かれて、「だ」と答えるのは不自然です。しかし「だな」「だよね」は自然です。なぜでしょう？／松本駅に到着した列車の車内アナウンス「まつも

と一」は音調が平坦です。行方不明の松本氏を捜して、森の中を進みながら言う「まつもと一」も平坦です。しかし目の前の松本氏には「まつもとお」と下降調で呼びかけられます。なぜでしょう？／「3時まで仕事する」と言えば、3時は仕事の終期で、2時に仕事を終えたら怒られます。しかし「3時までの仕事」なら、3時は仕事の期限で、頑張れば2時に終わられるかもしれません。なぜでしょう？／アンケート調査の結果を踏まえて、コミュニケーションの現場に根ざした文法システムについてお話しする予定です。

定延 利之
さだのぶ としゆき



京都大学大学院文学研究科教授

軽視・無視されがちな「周辺の」な現象の観察を通じて、言語学とコミュニケーション研究の前提を再検討しています。主著は『コミュニケーションと言語におけるキャラ』（三省堂、2020）、『文節の文法』（大修館書店、2019）、『コミュニケーションへの言語的接近』（ひつじ書房、2016）、『煩悩の文法』（凡人社、2016、筑摩書房、2008）、『日本語社会のぞきキャラくり』（三省堂、2011）、『日本語不思議図鑑』（大修館書店、2006）、『ささやく恋人、りきむしレポート』（岩波書店、2005）、『認知言語論』（大修館書店、2000）。最近の主論文に「発話への文法的接近」（『国語と国文学』99（5）、2022）、“Is discourse made up of sentences?”（Journal of Japanese Linguistics, 37（2）、2021）があります。

テキスト・参考文献 適宜、講義資料を配布します。また、参考文献は、講義の中で紹介していきます。

この課目で前提とされる知識など 特にありません。

講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

音声学的な知識と技能の基礎を習得する

調音音声学

音声学 ⑨

この授業では、国際音声記号（IPA）を用いた調音訓練を通して音声学の基礎を身につけることを目指します。世界の言語で区別される多様な音声に関わる調音的な知識と技能を学びます。解説を受動的に聞くだけでなく、IPA記号の手本の発音の模倣をしてもらいます。そして、参加者の発音に関する教師からのフィードバック（正誤と発音補正の方法）を授業中に共有することを積み重ねます。その過程で、調音の内省能力と聞き分け能力は進歩します。参加者の積極的な取り組みを期待します。

耳慣れない発音も多く扱います

が、日本語で聴き慣れている発音が、調音音声学的にはどのように理解できるか、微細な違いがどう表記し分けられるかも解説します。さらに、IPAの記述用語と音韻論の弁別素性の用語との対応を解説することで、音声学と音韻論の用語上の橋渡しをします。

練習中の自分の発音が正しいかどうか自信が持てない場合に、その音響的特性を視覚化して発音訓練に役立てることができる場合があります。その方法も解説します。そのために、この授業ではオンラインで無料入手できる音声学アプリケーションPraatを使います。

中川 裕
なかがわ ひろし



東京外国語大学総合国際学研究院教授

PhD (Linguistics)

音声学、音韻論、コイサン言語学

主要業績は下記のページをご覧ください。

<https://researchmap.jp/nhirosi>

テキスト・参考文献 適宜、講義資料を配布します。

この課目で前提とされる知識など 講座開始に先立って、www.praat.orgのウェブページの左上から、自分のOSに合うバージョンのPraatをダウンロードして、インストールし、起動の確認まで独力でできること。

講義形態 模倣発音の実習を交えながら講義を進めます

構文研究 導入から応用へ

認知言語学Ⅰ 構文理論入門

認知言語学入門 金

私たちが言語を使う時、その背後ではどのような知識がはたらいているのでしょうか？ 認知言語学からの答えは「記号単位としての構文」とそのネットワークです。本講義は、この簡潔な答えを拡充しつつ、言語についての理解を深めることを目的とします。「拡充」とは、例えば次のような考察を含みます：意味と形式のペアに数えられるのは何か？ 単語、イディオム、それ以外は？ ネットワークはどのような関係（リンク）によって成り立つのか？ 意味と呼ばれるのはどの

ような情報を含むのか？ 語用論的な情報も考慮するのか？ 構文の一般理論としてのConstruction Grammar (=CxG) は1980年代末にCharles J. Fillmoreとその共同研究者によって開発されました。初期のビンテージ論文から、最近の学会誌（例えばConstructions and Frames）や研究書シリーズ（Constructional Approaches to Language）に出た論文まで、理論の基本的な考え方と視野の広がりが見えるように提示していきます。

大堀 壽夫
おおほり としお



慶應義塾大学環境情報学部教授

1992年カリフォルニア大学バークレー校大学院言語学科博士課程修了、Ph.D。専門は意味論、機能的類型論（特に接続構造の類型と文法化）、談話分析。日本語著作：『認知言語学』（東京大学出版会、2002）、「日常言語の詩学」（斎藤兆史編『言語と文学』、朝倉書店、2009）、「従属節の階層を再考する」（益岡隆志他編『日本語複文構文の研究』、ひつじ書房、2014）、「類像性」（秋田喜美と共著、池上嘉彦・山梨正明編『認知言語学Ⅰ』、ひつじ書房、2020）。翻訳：M. トマセロ『心とことばの起源を探る』（共訳、勁草書房、2006）、L. ウェイエリー『言語類型論入門』（共訳、岩波書店、2006）、M. トマセロ（編）『認知・機能言語学』（共訳、研究社、2011）、J. テイラー『メンタル・コーパス』（共訳、くろしお出版、2017）など。

参考サイト：

<https://coglxremote.blogspot.com/p/research.html>

テキスト・参考文献 適宜、講義資料を配布します。また、参考文献は、講義の中で紹介していきます。

この課目で前提とされる知識など 言語学入門レベルの知識があると理解しやすいでしょう。同時に、自分自身の問題意識を持ち、それと関連づけて疑問や意見を投入する心構えを持って受講すると得るものが多いと思います。

講義形態 講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。

後期講座（半期単位で受講可能な講座）

2023年10月2日～全10回（祝祭日の講義はありません）

時間：19:00-20:40（100分）

省略現象に見られる言語間変異が、何に起因するのかを考える

生成文法Ⅱ 項省略と統語理論

生成文法 ㊦

Oku (1989) が日本語における項省略仮説を提示したことを契機として、項省略の研究は世界的に広がりをみせ、項省略は統語論における主要研究テーマの一つとなっています。本講義では、項省略現象を中心に、省略を可能にするメカニズムについて考えます。まず、動詞句省略、スルーシング、NP 省略など、省略現象一般について概観し、また、日本語における省略現象研究の歴史を振り返ります。その上で、項省略の分析に関する諸仮説を逐一詳細に検討します。Saito (2008) の

phi 素性一致の有無に基づく分析、Kurafuji (2019) の選択関数分析、Sakamoto (2019) の LF コピー分析、Takahashi (2020) の派生的 PF 削除分析などを取り上げる予定です。また、Hoji (1998)、Tomioka (2003)、Miyagawa (2022) など、項省略に懐疑的な論考の議論も考慮しつつ、項省略の省略現象としての特異性にも目を向けます。項省略現象に対する洞察を深め、また、その省略現象一般の分析に対する帰結を明らかにすることをめざします。

テキスト・参考文献 適宜、講義資料を配布します。また、参考文献は、講義の中で紹介していきます。

この課目で前提とされる知識など 言語学入門、統語論入門程度の知識を前提とします。

講義形態 講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。

斎藤 衛
さいとう まもる



ノートルダム清心女子大学文学部
英語英文学科教授

1979年スタンフォード大学哲学科卒業。1985年 MIT 言語学博士課程修了。南カリフォルニア大学助教授、筑波大学講師、コネディカット大学准教授、南山大学教授を経て、2022年度より現職。Linguistic Inquiry、Journal of East Asian Linguistics 等の編集委員を務める。主要編著書には Move Alpha (Howard Lasnik と共著, 1992, MIT Press)、The Free Word Order Phenomenon (Joachim Sabel と共編著, 2005, Mouton de Gruyter)、Japanese Syntax in Comparative Perspective (編著, 2014, Oxford University Press) などがある。

生成文法Ⅰ（入門）

生成文法入門 ㊦

内容は通年講座を参照

高橋 将一
たかはし しょういち



青山学院大学文学部教授

語用能力をさまざまな側面からとらえてみよう

語用論入門

語用論 ㊦

語用論は、会話を中心とした日常的なコミュニケーションのメカニズムを研究する学問分野です。会話で使われる言葉の意味を解釈するとき、また会話の中で言葉になっていないメッセージを汲み取るとき、どちらも相手の「意図」や「態度」といった、目には見えない心の状態を推し量ることが鍵になります。この講義では、コミュニケーションにおいて、相手の意図や態度を推測する能力を「語用能力」としてとらえます。そしてその働きや発達、障害について考察していきます。語用能力は言語能力とは区別されますが、両者には強い関係性があります。言語

発達に遅れがある場合、語用能力の発達にもその影響が出る可能性があります。たとえばバイリンガル環境で育つ定型発達の子どもの深刻な言語の遅れがある場合、日常会話も年齢相応にはできないことがあります。その一方で、高機能の自閉スペクトラム症児のように、構造的な言語力は高くても、会話は非常に困難であるケースもあります。どちらの場合も、表面的には語用障害を持つ子どもに見えますが、その原因は大きく異なります。この講義ではさまざまなケースをとらえ、言語発達と語用能力との関係についても検討します。

テキスト・参考文献 テキスト：松井智子 2013 「子どものうそ、大人の皮肉」岩波書店

この課目で前提とされる知識など 特にありません。

講義形態 講義に加え、ワークシートやグループセッションも予定しています。

松井 智子
まつい ともこ



中央大学文学部教授

ロンドン大学ユニバーシティカレッジ文学部言語学科博士課程修了 (PhD)。

著書に Bridging and Relevance (John Benjamins, 2000, 市河賞)、『子どものうそ、大人の皮肉』(岩波書店2013年)、『ソーシャルブレインズ』(分担執筆、東京大学出版会、2009)、『ミス・コミュニケーション』(分担執筆、ナカニシヤ、2011) などがある。

認知言語学Ⅲ 『「する」と「なる」の言語学』をめぐって

認知言語学 ㊦

内容は通年講座を参照。

池上 嘉彦
いけがみ よしひこ



東京大学名誉教授

「意味」の意味を掘り下げる

意味論の基礎

意味論 ㊦

意味論は理論言語学の中で一番とっつきやすい分野に見えて実は一番とっつきにくい分野です。その理由の一つは、ただの「意味論」という分野が存在しないことです。存在するのは形式意味論、語彙意味論、認知意味論、etc. であって、「意味論」ではありません。この講義では、どの立場に立つにせよ、意味(論)について最低限心得ておきたい問題をじっくり考えてみましょう。

人物 A とその完全なコピー人間 A' が話す言葉は同じ意味をもつでしょうか。「もつ」と答える立場を

意味論的内在主義、「もたないこともある」と答える立場を意味論的外在主義と呼びます。A と A' は脳状態も行動も同じですから、一見したところ内在主義が正しいことは明らかであるように思われます。私の2018、2019、2021、2022年度講義では、意味が「一見した」だけではすまないものであることを体感していただきました。2023年度も、引き続き「内在主義 vs. 外在主義」に関する論文を丁寧に読みながら、意味(論)の基礎を掘り下げたいと思います。

酒井 智宏
さかい ともひろ



早稲田大学文学学術院教授

意味論、語用論。

2003年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士(学術)

2004年パリ第8大学大学院言語学専攻博士課程修了、Docteur en Sciences du Langage 主要著作:『正しく書いて読むための英文法用語事典』(分担執筆、朝倉書店、2019)『最新理論言語学用語事典』(分担執筆、朝倉書店、2017)、『理論言語学史』(分担執筆、開拓社、2017)

継続して受講する方にとっても、今回から新たに受講する方にとっても、等しく有意義な講義となるように努めます。

テキスト・参考文献 授業で使用する資料とテキストはオンラインで配布し、参考文献は授業で必要に応じて紹介します。

この課目で前提とされる知識など 予備知識は必要ありません。

講義形態 ハンドアウト(スライド)を参照しながらの講義形式が中心となります

言語変化のメカニズムと記録以前の言語の復元について考える

歴史比較言語学入門

史的言語学 ③

この授業では、言語の変化を明らかにするうえで有効ないくつかの方法論（文献資料の扱い方、音変化の基本的なメカニズム、比較方法、内的再建法、生成文法からのアプローチ、類推の原理）について解説したあと、その方法論を諸言語のデータに適用しながら、実際の分析を行います。この分析作業により、受講生のみなさんの問題発見能力と問題解決能力が涵養されます。オンラインの授業ですが、できるだけ対話の時間を多くとり、分析が正しい方向に向かうように助言します。分析結果そのものよりも、根拠に裏付けられた考え方を重視し、言語分析の面白

さを体験します。主要なトピックとして、つぎのようなものがあります。

- ・ 言語は変化する
- ・ 話し手のいない文献資料から、どのようにして言語情報を引き出すか
- ・ 音変化のメカニズム
- ・ 記録以前の言語の復元（１）——比較方法
- ・ 記録以前の言語の復元（２）——内的再建法
- ・ 類推の役割
- ・ 生成文法からみた言語の変化
- ・ 比較言語学の歴史とその今日的意義

吉田 和彦
よしだ かずひこ



京都産業大学外国学部客員教授。京都大学名誉教授。日本学士院会員。コーネル大学Ph.D.（言語学）

言葉にかかわる問題全般に興味がありますが、特に言葉の変化に興味を寄せています。印欧系諸言語は東は中央アジア、西はアイルランドにいたる広大な地域で話されてきました。それらの言語が分岐する前の印欧祖語の再建および分派諸言語の後の変化という問題に取り組んでいます。そして紀元前二千年紀に遡る古い文献記録を持つヒッタイト語などの古代アナトリア諸語が、この問題の解明に向けて重要な鍵を担っているため、アナトリア諸語を中心に据えた比較言語学的研究を世界の研究者仲間と協働しながら進めています。みなさんの関心を広げるとともに、ことばの変化に関心がある方の研究テーマが実を結ぶように、ともに学び合いたいと思います。

テキスト・参考文献 毎回プリントを用意しますが、必要に応じて参考文献を指示します。

この課目で前提とされる知識など 言語学に関する一般的な基礎知識（特に音声学と音韻論）があることが望ましいです。史的言語学に関する予備知識は必要ではありません。余裕があれば吉田和彦『比較言語学の視点』の1-4章を読んでおいてください。

講義形態 講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。

言語研究の全体像を知る

言語学概論

言語学概論



「言語学概論」は前期と後期の2期にわたり、合計20回の講義を計10名の講師が2回(2週)ずつ分担する形で、言語研究の各分野の考え方と言語研究の面白さを解説する科目です。半期だけの履修も可能ですが、言語研究の全体像を理解するためにも両期とも受講されることをお勧めします。

今期は言語類型論、言語心理学、認知言語学、生成文法、社会言語学の5分野について解説したいと思います。単位取得を希望する人は、5名の講師が1題ずつ出すテーマから1つを選んでレポートを提出していただきます。

テキスト・参考文献 各講師が指定(もしくは配布)する。
この科目で前提とされる知識など ことばに関心のある人はどなたでも受講できます。言語学を一から学びたい方、言語研究の全体像をもう一度理解したい方、大学等で言語学概論をどのように教えたらいいか模索している方に特にお勧めの授業です。

講義形態 講義形式で進めていきます。

長屋 尚典
なが や なおのり



佐野 哲也
さ の てつや

明治学院大学文学部英文学科教授

言語獲得。University of California, Los Angeles, Ph.D. in Linguistics
主要著作: "Remarks on theoretical accounts of Japanese children's passive acquisition," in Generative Linguistics and Acquisition: Studies in Honor of Nina M. Hyams, John Benjamins, 2013. など。

松本 曜
まつもと よう

国立国語研究所研究系教授

専門は、意味論、形態論、統語論、語用論、類型論、認知言語学。主著に Complex predicates in Japanese (CSLI Publications)、編著に『移動表現の類型論』(くろしお 出版)などがある。

平岩 健
ひらいわ けん

明治学院大学文学部英文学科教授

専門は理論言語学、統語論。Ph.D. in Linguistics (MIT, 2005). The origin and architecture of existential indeterminates in Okinawan. The Proceedings of 94th Annual Meeting of the Linguistic Society of America 5(1), Internally headed relative clause. In The Wiley Blackwell Companion to Syntax, 2nd Edition. 2038-2069, The faculty of language integrates the two core systems of number. Frontiers in Psychology: Language Sciences 8:351, など。

嶋田 珠巳
しまだ たまみ

明海大学外国語学部教授

2007年京都大学大学院文学研究科行動文化学専攻言語学専修博士後期課程修了。博士(文学)。著書に、『英語という選択—アイルランドの今』(岩波書店 2016年)、共編著に『言語接触—英語化する日本語から考える「言語とはなにか」』(東京大学出版会 2019年)、『時間と言語』(三省堂 2021年)、共著書に『時間はなぜあるのか?—チンパンジー学者と言語学者の探検』(ミネルヴァ書房 2022年)など。おもな論文として "Speakers' awareness and the use of do be vs. be after in Hiberno-English", World Englishes 35, 2016年。研究テーマとして「言語知識とその更新—アイルランド英語の現代的諸相からの理論と検証」など。

文法形式の多義の分析から文法の基本問題へ

日本語文法理論Ⅲ スル・シタ・シテイル — いわゆるテンス・アスペクト形式の諸問題 —

日本語文法理論



個別の文法現象についてやや深く掘り下げて考えることで、文法研究の様々な面白さに出会ってもらうことを目指します。今年度は述語のスル、シタ、シテイルなどの形を取り上げます。これらは時間的な意味を表し分けるテンス・アスペクト形式だと言われていますが、スル、シタ、シテイルのいずれも、その表す時間的意味は1種類ではありません。その上、スル・シタは時間的意味以外の意味も表すことがあります（「どいた、どいた！」など）。こうした事実をどのように位置付けたらよい

のでしょうか。スル、シタ、シテイルの多義の問題を丁寧に分析しながら、日本語の様々な述語の中でこれら諸形式がどのような位置を占めるかについて考えます。現代語の分析が中心になります。必要に応じて古典語の例も挙げますが、知識が無くてもついていける内容にします。日本語を専攻する人はもちろん、諸言語のテンス・アスペクトに関心のある他言語専攻の人、また、テキスト言語学、認知意味論の分野に関心のある人にも役立つ内容になると思います。

川村 大
かわむら ひとし



東京外国語大学大学院教授

国語学（文法、文法論）。1990年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。博士（文学）。

『ラル形述語文の研究』（くろしお出版、2012）、「動詞ラル形述語文と無意志自動詞述語文との連続・不連続について」（『国語と国文学』89巻11号、2012）「ラレ形述語文における自発と可能——古代語からわかること——」（『日本語学』32巻12号、2013）など。「受身」「可能」「自発」ほか（『日本語文法事典』大修館書店、2014）、「喚体」「述体」「上代の文法」「統覚作用」「文法研究史」ほか（『日本語大事典』朝倉書店、2014）など。

テキスト・参考文献 尾上圭介『文法と意味Ⅰ』（くろしお出版、2001）ほか。

この課目で前提とされる知識など 日本語学・言語学の入門程度の知識が必要です。古文の知識は前提としません。

講義形態 講義形式ですが、適宜質疑の時間を設けます。

スクリプトを使いこなす音声学を学ぶ

実験音声学

音声学 金

無料でありながら多機能で、音声学の世界標準となっている音声分析ソフトウェアPraatを用いて、実験音声学の基本を身につけ、自ら実験をデザインし、それを実施できるようになることを目指します。産出と知覚の双方について様々な実験デザインの基本形を示し、それを実行・解析するために必要なスクリプトプログラミングの仕方を基礎から丁寧にお伝えします。音声は一人や二人に数回発話してもらったりそれを聞いたたりするだけでは、なかなか確かな事実には辿り着けない不安定なものです。しかし、例えば10人の方に

20の項目を3回繰り返していただくだけで600もの素材を扱うことになり、ひとつひとつ手作業では処理しきれないどころか、エラーが混入しやすくなってしまいます。そのため、機械にできることはなるべく機械に任せられるようにしたい、というのがスクリプトを書く動機です。この講義では特に、音声学の現場での作業は機械にとってどういう処理が行いやすいか、また、それを結果としてまとめる際の統計的な処理を見越した実験計画に大きく依存している、ということも含めて伝えていきたいと考えています。

北原 真冬
きたはら まふゆ



上智大学外国語学部教授

上智大学国際言語情報研究所音声学研究室長。専門は音声学・音韻論・認知科学。1997年京都大学大学院文学研究科言語学専攻博士課程中退。2001年インディアナ大学大学院博士課程修了。joint Ph.D. in Linguistics & Cognitive Science。著書は本講義のテキスト。

テキスト・参考文献 北原真冬・田嶋圭一・田中邦佳(2017)「音声学を学ぶ人のためのPraat入門」ひつじ書房

この課目で前提とされる知識など Mac、あるいはWindowsPCの基本的な使い方（ファイル名の拡張子を表示できることや、フォルダを適宜階層的に配置してファイル群を整理することなど）。Googleドライブで課題を共有するため、無料で入手できるGoogleアカウントを講義開始までに各自で取得してください。

講義形態 受講者が自らの音声を録音・分析・加工し、それを処理するスクリプトを書く実習と講義の組み合わせ。音声ファイル等の課題提出あり。

言語学の視点から言語哲学を学ぶ

言語哲学 言語哲学の基本から応用まで

言語学特殊講義 金

言語哲学は、哲学の中でも長い伝統をもち、特にフレーゲ以降の現代哲学では重要な位置を占めてきました。例えば、「人間の思考とはどのようなものか」とか「世界には何があるのか」とかいった大きな（雲をつかむような）問いは、人間の言語を調べることで始めて接近できると考える哲学者がいます。このような「言語哲学第一主義」とでも言えるような哲学へのアプローチは、かならずしも現在主流となっているものではありませんが、依然として言語が哲学者の主要な関心事の一つであることには変わりありません。同

時に言語哲学は、言語学の中でも特に意味論・語用論の分野と深く関係しています。言語哲学の概念や方法は、意味と指示、論理や形式意味論といった「意味論」の周辺の話から、話者の意図や推論、コミュニケーションや言語行為といった「語用論」の話題まで、じつに多様な展開を見せています。この講義では、言語哲学の問題や概念をできるだけ平易に解説し、哲学者や言語学者が問題にしてきた具体的な言語現象を通して、言語哲学の基本から最近の展開まで理解を深めたいと思います。

テキスト・参考文献 ハンドアウトを配布し、必要な参考文献は授業中に紹介します。

この課目で前提とされる知識など 哲学や言語学に関する予備知識は必要としません。幅広い関心からの参加を歓迎します。

講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

峯島 宏次
みねしま こうじ



慶應義塾大学文学部准教授

専門は、言語哲学・意味論・語用論・論理学。2008年慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程（哲学専攻）単位取得退学、博士（哲学）。

主要な著作に、『名詞句の世界』（共著、ひつじ書房、2013年）、『岩波講座哲学 第三巻 言語／思考の哲学』（共著、岩波書店、2009年）、『論理の哲学』（共著、講談社、2005年）、W.ライカン『言語哲学——入門から中級まで』（共訳、勁草書房、2005年）など。

理論言語学講座夏期集中

※100分×10コマの講義の時間数を3日間で変則的に組み込みます。
時間割が決まり次第、研究所公式サイト等でお知らせいたします。

Langacker を読む：認知文法の基礎から最前線まで(2) 8月11-13日

認知言語学Ⅱ

認知言語学

この講義では、「言語（表現）の意味とは何か」、「文法は意味とどのように関係しているのか」、「語彙と文法はいかなる関係にあるのか」、「そもそも文法（的な知識の単位）は何のためにあるのか」、「言語の使用を可能にする知識とはいかなるものか」等の言語学の根本問題に対する認知文法(cognitive grammar)の考え方を、この理論の創始者 Ronald W. Langacker の著作を深く正確に読み解くことを通して、多角的に検討します。ここまでは昨年

度までの講義とほぼ同じですが、今年度は、草創期から近年までの理論の展開を辿るのに適切と思われる（昨年度より長めの）文章を厳選して精読する予定です。英語が専門でない人にも原典に真剣に取り組むことの意義と楽しさを十分に共有していただけるように努力します。

西村 義樹
にしむら よしき

対面 + オンライン (予定)



東京大学文学部（言語学研究室）教授

専門は認知言語学、意味論、日英語対照研究。

1989年東京大学大学院人文科学研究科博士課程（英語英米文学専攻）中退。

『構文と事象構造』（共著、研究社、1998）、『認知言語学Ⅰ：事象構造』（編著、東京大学出版会、2002）、『明解言語学辞典』（共編著、三省堂、2015）、『日英対照 文法と語彙への統合的アプローチ：生成文法・認知言語学と日本語学』（共編著、開拓社、2016）、『メンタル・コーパス：母語話者の頭の中には何があるのか』（共編訳、くろしお出版、2017）、『認知文法論Ⅰ』（編著、大修館書店、2018）、『慣用表現・変則的表現から見える英語の姿』（共編著、開拓社、2019）、『認知言語学を拓く』、『認知言語学を紡ぐ』（いずれも共編著、くろしお出版、2019）など。

テキスト・参考文献 講義で用いる（画面共有する）テキストはこちらで準備してあらかじめ受講者に共有する予定です。基本的な参考文献のリストは開講前に共有する予定ですが、それ以外の文献も講義中に適宜紹介します。

この課目で前提とされる知識など（認知文法を含む）認知言語学についての知識は前提としませんが、開講前に西村義樹・野矢茂樹著『言語学の教室：哲学者と学ぶ認知言語学』（中央公論新社）を通読されることをお勧めします。受講者には日本語で書かれた基本的な文献をいくつか開講前にお送りする予定です。

講義形態 講義形式で進めます。

人間の言語理解のしくみを考える 8月18-20日

言語心理学入門 人間の言語処理

言語心理学

言語心理学とは、言語運用にかかわる人間の認知のしくみのあり方、過程を探る分野です。言語に関する知識というものがあるとして、それを人間がいかに獲得するのか、そしてそれをどのように使いこなす（理解および産出にかかわる「処理」）のか、ということについて考えたり、各種実験で調べたりします。私たちが普段当たり前のようにリアルタイ

ムで言葉のやりとりを行っているという事実がいかに不思議ですごいことか実感していただけることと思います。本講義では、特に、人間が音声・語・構文などの情報をリアルタイムに処理するしくみについて扱います。初学者を想定とした講義形式が中心のスタイルとなりますが、実際の研究にも触れながら議論を行う機会も設けたいと思います。

広瀬 友紀
ひろせ ゆき

対面 + オンライン (予定)



東京大学総合文化研究科言語情報科学専攻教授

1999年 The City University of New York にて Ph.D. in Linguistics 取得。心理言語学のなかでも、特に人間の言語情報処理に関心があります。言語発達過程の子どもがどのようにその知識を運用するにも興味があります。著書に『ちいさい言語学者の冒険』（岩波科学ライブラリー）『子どもに学ぶ言葉の認知科学』（ちくま新書）『ことばと算数 その間違いにはワケがある』（岩波科学ライブラリー）。

テキスト・参考文献 教科書はありませんが、授業がよりわかりやすくなる参考書としては：川添愛『働きたくないイタチと言葉がわかるロボット』（朝日出版社）、広瀬友紀『子どもに学ぶ言葉の認知科学』（ちくま新書）

この課目で前提とされる知識など IPA の表を、暗記はしていなくてもどのように分類されているか何となく解っている、あるいは簡単な文の構造を図示できる（単純な木構造の書き方が何となく解っている）ことが望ましいですが必須ではありません。

講義形態 講義演習方式で進めます。

教室地図

●一般財団法人 ラボ国際交流センター 東京言語研究所
事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 1-3-21 2F

TEL:03-6233-0631 FAX:03-6233-0633

E-Mail:info@tokyo-gengo.gr.jp <http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>



- 東京メトロ副都心線「東新宿駅」出口 B1 より徒歩 1 分
- 都営地下鉄大江戸線「東新宿駅」出口 A1 より徒歩 5 分
- JR 山手線「新大久保駅」より徒歩 10 分
- 西武新宿線「西武新宿駅」より徒歩 15 分